

## シンポジウム

### 「大学図書館と学術出版社の連携：電子学術書利用実験の提案」

日時 2010 年 10 月 6 日(水)

場所 慶應義塾大学三田キャンパス東館6階 G-SEC Lab (<http://www.keio.ac.jp/access/mita.html>)

スケジュール

13:30- 受付開始

14:00-14:05 主催者挨拶 慶應義塾大学メディアセンター本部事務長 平尾 行蔵

14:05-14:35 「E-Books and E-Journals in US University Libraries -Current status and future prospects」

OCLC Research / RLG Partnership James Michalko

14:35-15:10 「電子学術書利用実験の概要」 慶應義塾大学メディアセンター所長 田村 俊作

休憩

15:20-16:00 「電子化と実験システムについて」 DNP 大日本印刷(株) 京セラコミュニケーションシステム(株)

16:00-17:00 「実験への期待」 出版社と実験参加者(予定)から

17:00-17:30 質疑応答

18:00- 懇親会

◇ 会場において 13:00 から 13:50 まで実験システム展示と説明を行いますので、ご参加ください。

主催 慶應義塾大学メディアセンター 共催 東京大学出版会 慶應義塾大学出版会

○参加申込み方法： 参加費無料 どなたでも参加できます。

件名に「20101006 シンポジウム参加申込み」と記載し、所属、氏名、懇親会参加有無を記入の上、下記メールアドレスへ申込みください。 [20101006.symp.keio@gmail.com](mailto:20101006.symp.keio@gmail.com)

○定員：100 名（先着順） 申込みが多数で参加いただけない場合のみご連絡いたします。

実験システム展示は申し込み不要。どなたでもご覧いただけます。

今年は、iPad が発売され、電子書籍元年と言われています。しかし、この数年、大学図書館で利用できる日本語の電子学術書はほとんど増えていません。一方で、海外の電子ジャーナルや電子学術書の普及で、英語、中国語などの資料は、インターネットで全文を利用できることが当たり前になりつつあります。

なぜ大学図書館で使える日本語の教育用の電子学術書が増えないのでしょうか。そして、これから増やしていくには、どうしたらいいのでしょうか。その突破口を考えるため、学術出版社からコンテンツの提供を受け、実際に学生が利用できる、電子学術書プラットフォームを作り、慶應義塾大学で利用実験を計画しました。

本シンポジウムでは、米国の最新状況の報告を受け、この実験を教育用電子学術書普及の突破口とするべく、出版社・図書館・利用者で議論を深めます。

#### プロジェクトの特徴

- ・ 大学図書館と学術出版社との共同実験
- ・ 学生参加型での利用実験
- ・ 新しい図書館利用モデルの検討

#### 実験システムの特徴

- ・ 大学認証システムを使った利用者特定
- ・ 図書館システムと連携した電子書籍検索
- ・ 多様な利用ログの収集
- ・ 電子書籍は貸出期間付きのダウンロード型
- ・ 電子書籍は PC、iPad、アンドロイドで利用可能
- ・ ページレイアウト型・リフロー型のマルチフォーマット対応